

みんなではなそう 未来の図書館

図書館ってどんな場所？

<としょかんワークショップ 一般編>

日時 2020年8月23日(日) 11:00~12:00

場所 花巻市立東和図書館

講師 富士大学経済学部 教授 早川光彦

1 自己紹介にかえて

- (1) 泉市図書館 [現：仙台市泉図書館] の衝撃
- (2) 図書館の天使
- (3) 理想の図書館像

2 公共図書館ってどんなところ？

- (1) 図書館のマイナスイメージ
 - 暗い雰囲気, おしゃべりすると怒られる
 - 役所臭い対応 (言葉遣いと職員の服装)
 - センスの悪い資料としつらえ
 - 使いづらい環境
 - 生活に必要なでない存在
- (2) 図書館が成り立つ3要素 + (プラス) 1
人, 資料, 建物 + 利用者

3 図書館法から考える目指すべき姿

図書館法 抜粋

第二条 (定義) この法律において「図書館」とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設で... (以下略)

第三条 (図書館奉仕) 図書館は、図書館奉仕のため、土地の事情及び一般公衆の希望にそい、更に学校教育を援助し得るように留意し、おおむね左の各号に掲げる事項の実施に努めなければならない。(以下略)

第十条 (設置) 公立図書館の設置に関する事項は、当該図書館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

- (1) 図書館の役割と機能を理解する
- (2) 図書館サービスの可能性を引き出す
- (3) 図書館は誰のためにあるのかを考える

4 図書館ってどんな場所？ —写真で見る公共図書館の姿—

- (1) 図書館は何でもできる自由な空間
- (2) 生活に根づく図書館の姿
- (3) ぼくは、図書館がすき

5 豊かな生活を支援する図書館

- (1) 図書館は可能性を提供します
- (2) 刺激的で楽しい図書館とは
- (3) 「本のある広場」としての図書館
- (4) 一生涯学び続けることができる場所
- (5) 将来を担う子どもたちに何を残すのか

6 元気のいい日をつくりだす図書館

ありうべき「図書館」というのは、ただの建物でも、ただのシステムでも、ただのサービスでも、ただの行政の一環にすぎないものでもありません。「図書館」がわたしたちにとってなくてはならない場所であるのは、人びとの記憶の庫としての「図書館」という場所が、わたしたちの社会にとって、遠くを見はるかす展望台のひろびろとした空気のように必要だからです。

人びとにとって元気のいい日をつくりだすのは、信じられないかもしれませんが、元気のいい「図書館」です。元気のいい「図書館」というのは、そこに本のある場所なのではありません。本の世界がつくってきたゆたかな時間がある場所です。

『読書からはじまる』長田弘著 日本放送出版協会 2001.6

7 むすびにかえて

知識はすべての国において、国民の幸せのもっとも確かな基盤である

一七九〇年一月八日 ジョージ・ワシントンの一般教書演説における最初の年の議会教書より p 231

『ネット時代の図書館戦略』ジョン・ポールフリー著／雪野あき訳／原書房 2016